

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	美術博物館活動推進事業	会計	一般会計	事業No.	820	施策順No.	28-016
		事業種別	政策・その他	予算科目	10-5-6-11-1		
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり	課等名			美術博物館		
施策	28 学習交流活動の推進	事業期間	開始	1	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	1 飯田下伊那広域圏の地域住民						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		圏域住民数(人)	177000	177000	177000	177000	177000	
	意図	1 郷土の偉人の学習が深まる 2 市民の自主的な調査研究活動が盛んになる						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	観覧者数(柳田館、日夏館、プラネタリウム(H22まで)含む) (人)	50997	42322	45831	40000	44362	40000	A
	助成団体の刊行物の発行数	9	9	11	10	10	10	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	プラネタリウムは機器更新のため冬期休業したにも関わらず、旧機へのお別れイベントをおこなうなどして観覧者がむしろ増加した。柳田館・日夏館の来館者も増加傾向にあり、目標を達成できた。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	1 柳田国男館、日夏歌之介記念館の運営、伊那谷の自然と文化研究事業及び学術研究補助金 2 びはく年間パスポート事業 *H22年度までプラネタリウム投影事業を含めていたが、H22年度後半より「ドームシアター運営事業」として分離した。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 柳田館・日夏館の公開(美術博物館開館日に公開) 2 プラネタリウム投影 年4回番組を更新 投影回数370回実施 3 「伊那谷の自然と文化研究助成」の交付 伊那谷自然友の会(伊那谷の自然を対象とした調査活動) 柳田国男記念伊那民俗学研究所(飯田・上飯田の民俗調査) 4 びはく年間パスポート事業	1 観覧者数 2 投影回数 3 助成先の刊行物数 4 年間パスポート発行数	1 3,000人 2 369回 3 10種類 4 222人
23年度実施計画	1 柳田館・日夏館の公開(美術博物館開館日に公開) 2 「伊那谷の自然と文化研究助成」の交付 伊那谷自然友の会(伊那谷の自然を対象とした調査活動) 柳田国男記念伊那民俗学研究所(飯田・上飯田の民俗調査) 3 びはく年間パスポート事業	1 観覧者数 2 助成先の刊行物数 3 年間パスポート発行数	1 2,000人 2 10種類 3 400人

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 [22特定財源]使用料、諸収入 [23特定財源]使用料、諸収入
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他		7,083	5,920	1,942	
一般財源		147	243	140		
計(A)		7,230	6,163	2,082		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			0			
トータルコスト A+B			6,163			

4 事業に対する市民や議会の意見

<ul style="list-style-type: none"> 郷土の偉人や自然、民俗など地域文化に関する問い合わせが増加している。 プラネタリウムの充実を望む声がある。
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	1 学びの機会が得られる	施策の成果指標又はムトス指標	1 学習活動をおこなっている市民の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	当初、異分野にまたがる活動を一括するあいまいな事業であったが、付属施設の公開およびプラネタリウム投影、年間パスポートなど市民の日常的な博物館利用を促す事業とともに、より深く活用する研究補助事業を含めて、さまざまなレベルでの学習交流活動を促すことに貢献してきた。		
	後期に向けた課題	プラネタリウム投影事業を切り離すことにより、学習交流の内容を明確化させる必要がでてきた。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	年間パスポート事業を新設した。また付属施設の公開だけでなく、田中芳男を顕彰し普及する事業を行ってきた。		
	後期に向けた課題	年間パスポート事業のねらいを再検討。		
コストを削減するためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	プラネタリウム投影および付属施設公開などにおける人件費節約		
	後期に向けた課題	自然と文化研究助成と、自然分野の地域史研究補助事業との統合、もしくは自然と文化研究助成の内容を再検討。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切 でしたか	4年間の振り返り	郷土の偉人を顕彰し地域文化を高めるために、付属施設の観覧を無料としてきた。研究助成については地域史研究を市民参加で行うためにも		
	後期に向けた課題	付属施設の観覧料(現在無料)と年間パスポート事業の特典について再検討。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果 たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけを してきましたか、又は、配慮して きましたか	4年間の振り返り	年間パスポート会員向け事業を頻繁に行うことにより、会員相互の交流と連携ができつつあり、地域文化と美博を支援する意識がめばえつつある。研究助成事業は、自然および民俗に関する地域史研究成果の積み重ねに貢献してきたが、研究を担う個人・団体の裾野を広げるまでには至っていない。		
	後期に向けた課題	地域史研究を担う民間団体の支援と、その後継者の育成		
全体を通じて	4年間の振り返り	さまざまな活動を一括した事業のため、目標管理があいまいだった。		
	後期に向けた課題	各事業の担当を明確にする。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	--	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	--